

菜の花の咲く季節となりました。年度末です。教師には年輪ができます。この1年、みなさんは深く大きな年輪を刻まれたことと思います。そんな中、3月11日、若手研を開催しました。

19年3月の例会報告

- ◆ 期 日 平成19年3月11日(日) 午後2時
- ◆ 場 所 西加茂郡三好北部小学校
- ◆ 参加者 霜田一敏(愛知・淑徳大学)
酒井宏明(西加茂郡三好北部小学校長)
田村高浩(豊橋市立牛川小学校)
中島年隆(西尾市立西野町小学校)
川合英彦(豊田市立則定小学校)



1 東海市の戦後とわたしたち 提案：川合

1月中旬から3月上旬まで、勤務校から週に1、2度、計11回、東海市の横須賀小に伺って、6年・社会科の1単元の授業をさせていただきました。よその学校の子どもたちに追究型の学習を行うということで、ハンディもありましたが、そこは、担任の教職3年目のすばらしい先生の協力でカバーすることができました。

実践の経過は下記のブログでも公開しました。

- ◆ブログ・若手研：カテゴリ・18 実践 東海市の戦後とわたしたち

<http://blog.goo.ne.jp/hnk333/c/a01fd238374fc61d152a8fb0c2e0acb6>

その実践の経過について提案しました。

以下、今回話題になった点です。

田村 単元を潜り抜けた姿を大切にしたい。

シンボリックな工業。子どもたちが自慢ができるように。生活の基盤。教科書5年出てくるトヨタの自動車工業との関連で、感じさせることができるのではないかな。
小学生に負の面を感じさせるのは酷ではないかな。

川合 現在までの市の光をまず子どもたちに十分感じさせ、その中で発生する影の部分について考えさせたい。多面的なとらえをさせたい。

酒井 教材化の視点は製鐵所がきたことによる社会の変化。生活の変化をとらえさせたい。

霜田 新聞がいい資料になる。反対意見と賛成の両方がある。埋立地、港湾、企業の集積の様子など、この教材の切り口はいくつもある。子どもたちに、関連的思考の力育てたい。新しい街ができるとは具体的にどういうことなのか。工場ができる、住宅ができる、人口が増加する、道路ができる、スーパーマーケットができる、街が活気づく…そういうイメージを子どもが想像する力を育てたい。総合的な力を鍛えることになる。

田村 製鐵所見学をしているのか。すごさを知ることがまず始めの一步ではないかな。

霜田 鉄は、子供たちから少し遠い。製品をどこに出しているかまで含めてとらえさせる必要がある。

酒井 まちづくりの教材化の視点について。インフラ整備のあり方、新住民と旧民の利害対立。企業に頼る財政の不安。税、財政のあり方、住民税、法人税という視点が必要ではないか。

霜田 子どもたちが自分の街を自分で作るという教材にしてはどうか。公害もくらしの変化の一つとらえる。町の歴史におけるプラスの変化をみた上で、公害をとらえる。生活の豊かさとともに、負のものが生まれてくるというとらえ方をさせたい。

中島 僕は半田市民。東海市だけ別という意識がある。鉄の街で名古屋っぽい、という印象。

霜田 他県から来た人の立場にたって、その人たちはどんなイメージで来たのか、という視点で切り込んでどうか。その時の思いを写真や当時の状況から想像してはどうか。

川合 実践を総括して

- 1 今回、一つの教材発掘の挑戦となった。この教材を地元の教師が自分なりに構想して実践する中で実践が磨かれ、東海市の地域教材の一つになればと願う。
- 2 子どもの内面に迫り、価値観を揺さぶる授業であるためには、教材に対する共感と葛藤が必要。今回、人を柱して、その人に対する共感を子どもに与えることをまず目標とした。子どもたちが、海苔養殖をしていた祖母、新日鐵に勤める父、長崎かにやってきた祖父などの人を追究し始めた。しかし、その追究を深めることができなかった。時間的、物理的な理由、そして、その方たちからOKがいただけなかったことなどいくつも理由はある。プランどおりにはならない。
- 3 座席表指導案、抽出児のとらえと授業への位置づけ方、想像により問題意識を高める授業、つなげる授業のあり方など、様々な課題と可能性が実践の中から見えてきた。
- 4 私自身、じっくり子どもと向き合い、真っ向から授業に向かうことができたこと、子どもに願いをかけて取り組めたことが嬉しい。座席表に子どもたちの感想を落としながら、その子の感想の背景を考えたり、次の授業の話し合いの展開を考えたりする、楽しい時間を持つことができた。

2 豊橋市社会科研究部作成した戦国時代の地域資料集について 提案：田村



前回の若手研への提案の続編です。東三河の戦国武将戸田氏は、過去に地域教材として小学校でも実践化されているようですが、子どもに分かる資料がないのが実践のネックとなったそうです。そこで、豊橋市社会科部の取り組みとして作成に乗り出したそうです。

子ども用の読み物資料や地図を作成する作業は教師にとっても楽しい作業だったようです。お城の縄張り図は、写真を併記してありました。また、戦国自体の三河の勢力分布図は、子どもが色塗りをしながら学習できるように工夫してありました。大変判り易かったです。

田村さんは、教材研究を通して、戸田氏が今川でなく、織

田に従った理由は親近感ではないか、と気づいたそうです。戸田氏は港を持っていた。そして織田もまた港を持っていた。これが、圧倒的な財力を持ち格式や血統を重んじた今川氏でなく、信長に親近感を持った理由ではないかと。

この提案に対して、以下の質問がありました。

霜田 戸田氏の存続は、いくさだけでなく、国を治めるという部分があつたはず。その視点を子どもたちに持たせてはどうか。また、戸田氏の決断の背景には、三河の貧しさ、戦いの弱さという視点はが必要ではないか。

川合 豊橋市の社会部はどのような活動をしているのか。

田村 授業研部会、副読本部会、教育課程部会の3本柱。この資料は授業研究部会で作成した。17年度作成し、18年度三教研で提案。18年度は、提案者以外も6年担任で同一教材を各自の単元構想で実施した。

次回の若手研について

- ◆ 期 日 平成19年4月15日（日）午後2時～
- ◆ 場 所 愛知県西加茂郡三好町立三好北部小学校
(東名高速道路三好インターの隣の学校です。)
- ◆ 内 容 年度当初の顔合わせ、近況報告、今年度の各自の活動テーマなど
- ※ 事前の出欠の連絡をいただければありがたいです。



霜田先生、長い間お疲れ様でした



霜田一敏先生が、この3月で愛知淑徳大学を退官されます。先生は平成7年3月愛知教育大学を退官された後淑徳で異文化理解、コミュニケーションの分野で主に大学院生の指導をしてみえました。まだまだお元気な霜田先生、これからもよろしくお願いいたします。

♥ 岩田君、結婚おめでとうございます。



3月17日、岩田君の結婚式に若手研から5名参加しました(酒井先生、山北先生、水谷先生、中島先生、川合)。モデルのようなきれいな奥さんでした。岩田君はもうでれでれ…。東海集会の写真も披露宴で紹介していただきました。「外国一人旅」が趣味だった岩田君、これからは「人生の二人旅」ですね。ぜひご夫婦で若手研に来てください。



=連絡1= 考える授業サポーターへのお誘い

今、霜田先生を中心として、「考える授業サポーター」の活動が企画されています。

これは、初志の会を始めとしたこれまでの優れた授業実践をされ方々に現場の私達教師の悩みや授業づくりの相談にのっていただくというものです。

現在、サポーターの募集をしています。サポーターに応募していただける方、またこの企画に興味のある方はぜひ、ご連絡ください。

霜田先生のメッセージは、下記HPでもご覧いただけます。

<http://www.geocities.jp/hnk333/simodal.html>

◆連絡先 メール hnk333@yahoo.co.jp

または、愛知県岡崎市鴨田町北魂場 79-14 川合まで

電話 0564-26-0363

考える授業サポーターへのお誘い

霜田一敏（愛知淑徳大学・愛知教育大学名誉教授）

小学校から高等学校まで、学校教育で行われている多くは、覚えることを目的にした授業であり、先生が覚え込ませる授業である。如何に効率よく上手に正答を覚えるかが学校での成績になり、それをうまく成し遂げる生徒が優等生である。この風潮や考えはすべての生徒に行き渡っているといえる。今日の高校から大学に進学してくる学生を見れば歴然とした事実である。大学に進学してきた学生たちの多くは、問題意識を持って積極的に考えたりしているとはいえない。授業に対しても、受け身の学習体制であり、教官に教えてもらい、それを理解し覚えようとする。黒板やボードに書かれたものをそのままノートに写すことを勉強することだと思っている。要領よくノートし、それを覚えて試験にパスしようとする態度が、学校教育12年の間に染み付いてしまっているのである。その背景には答は一つであるという正答主義がある。教師や教科書、参考書に正答があり、それを批判して別の答を求めようしたり、複数の回答を追求しようという考えは受け入れがたいのである。学生たちは、教えられるものを如何に受け入れ理解するかという受け身の思考活動しか働かないのである。主体的な思考活動を喚起することはない。考える主体、学ぶ主体が育成されていないところに問題がある。

学生たちは大学の授業のなかで主体的な発言や考えが求められると困惑してしまう。大学ではレポートや論文の提出が頻繁に求められるが、自分の考えを論理的に展開する術を知らない学生には重荷である。今の学生は問題意識も批判力も育成されていないから、何を主張しどう書いたらよいのかわからず、コンピュータや他の人の論文に頼り、そのまま引用して自分が書いたものにする。盗作であることさえ、意識されていないのである。

これらの学生たちが4年間の大学教育で主体的な人間に育っていくであろうか、きわめて疑問である。大量の学生を受け入れ、少人数の教官でマス教育をしている大学教育では、ひとりひとりの人間力の育成や人間教育まで目が行き届かないのが実状である。

今大学を卒業して、それぞれの職を得て社会人になっていく学生たちを見た時、これからの日本社会の将来に危機を感じてしまうのは私一人だけだろうか。

根本から人づくりや教育のあり方を問い直す必要がある。特に、学校教育のあり方を問い直し、考え直さなければならない。知識を覚える教育から脱皮し、幼少時から考える主体をどう育てるかに目を向け、時間と労力をかけて考える力を育む授業の復興を図らなければならない。そのためにも考える授業の普及とそれを可能にする教師の育成は急務である。特に来年度から団塊の世代の退職を迎え、また、少人数学級の増加が見込まれることから、在職の教師も含めて自主的な再教育、再研修の機会を設け、サポートが必要である。

幸いにして、優れた実践を残された社会科の初志をつらぬく会会員の方で退職された方や退職の時期を迎えられた方が多い。その先輩方に、これからの日本子どもたちのためにも奮起して頂き、各地で休日などを使って自主的な教師の集いや研究会を催し、現場の様々な悩みの相談や教育実践上のサポーターとなって初志の会の考えの普及に努めて頂きたい。私も及ばすながら愛知県を中心に、各地の集いに参加してサポーターの役割を担いたいと思っている。その際には、初志の会への入会という条件をつけずに、考える子どもの育成、教科を越えて考える授業をつくる協力者・仲間として手を携えて組織拡大に努力すべきであると考えている。

（平成19年1月）

= 連絡2 = 初志の会50周年全国集会について

1958年、初志の会が誕生して、今年で50周年を向かえます。それを記念して、今年の夏50周年記念の全国集会が開催されます。梅原猛先生のご講演を始め企画が進んでいます。新たな一步を踏み出すためにも、この会を成功させたいものです。

◆期日 平成19年8月5日(日)～7日(火)

◆場所 京都・聖護院御殿荘

集会のパンフレットが作成されました。

この若手研の会報のメールと合わせて送付しますので、印刷してお知り合いの方に配布するなど、ご活用ください。今回、残念ながら東海地区から分科会への提案はないとのことですが、ぜひ他の地区の実践に学びたいものです。

また、パンフレットについては、初志の会のホームページから入手できます。

◆ 初志の会50周年記念全国集会パンフレット

<http://homepage2.nifty.com/shoshi/event/2007summer/2007summer0.pdf>

全 国 研究集会 **初志の会50周年記念**

問題解決学習で育つ子ども・教師の力 —初志の会50年の継承と発展—

2007年 8月5日(日)～7日(火)

会 場:	聖護院御殿荘	〒606-8324 京都市左京区聖護院中町 15
記念講演:	梅 原 猛	8月6日 15:30～16:45
講 演:	上 田 薫	8月7日 11:00～11:50
日 程:		
8月5日	13:30～	全体会 学年別分科会 総会 自由交流会Ⅰ
6日	9:00～	学年別分科会 記念講演 50周年総観会 自由交流会Ⅱ
7日	9:00～	シンポジウム 講演 全体会 12:00 終了

社会科の初志をつらぬく会
(個を育てる教師のつどい)

<http://homepage2.nifty.com/shoshi/>

*2007年度から会費が値上げされます。(会員 8000円、聴友 6000円)